（第６条関係）

事業計画

事業名	公共サイン改善事業
団体名	都市環境デザイン学研究室 公共サイン研究会
事業担当課	松戸市 街づくり部 都市計画課

取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	**松戸市における公共サインの改善** かつて宿場町として栄えた松戸市は、高度成長期の人口急増に対応し、昭和40年代から50年代前半頃に集中的に公共施設の整備が行われた。各施設整備に応じて設置された公共サインは、設置者や管理者がそれぞれ異なり、経路がわかりにくい、景観特性を活かしきれていないなど改善する必要性が高い。公共サインの改善に関しては、特に景観の観点からその必要性が問われてきたが、近年ではまちのアイデンティティ創出の観点からも、各地の自治体での取り組みが進められている。 このような背景から、単なる視認性向上や多言語対応等だけでなく、統一したイメージカラーや字体、独自デザインのピクトグラム等を設定し地域性を表現する事例もみられる。しかし、松戸市は地域により様々な特徴を有しており、単一のイメージで語ることは難しいと考える。「松戸らしさとは？」と問われたとき、すぐに答えられる市民がどれだけいるだろうか。私たちは、松戸市が古くから宿場町として栄え、現在はベッドタウンとしてビジネスマンや学生、外国人等の多様な人々が特に不自由なく暮らし、一見特徴のないように感じることこそが、松戸の魅力である「住みやすさ」を表しているのではないかと考えた。今後の松戸の公共サインを考えることは、「住みやすさ」という魅力を更に高めることである。単に「きれいに整える」ということを目指すのではなく、市民が松戸のアイデンティティとして認識するようなアイコンとなり、市内外へ松戸の魅力をアピールするツールとなり得るような、公共サインを通した「松戸のジャンプアップ」を目指すものである。
事業の目的	**松戸市における公共サイン改善の活動の普及と、地域の声のフィードバック** 上述の課題を踏まえ、公共サインの改善のためにはデザインや管理に関するガイドラインが必要不可欠であると考える。また、このガイドラインは策定しただけでは陳腐化する例も少なくないことから、私たちは**行政と松戸の地域住民がともに公共サインについて考える**というプロセスを重要視しており、ガイドライン策定に向けて以下の目的を設定する。 ① 活動の普及に努め、市民と共に公共サインについて考えることを通して**「今よりもっと住みやすい松戸」**を考える。 ② **松戸市の街全体のイメージアップにつながるサインデザインガイド策定**の一部に寄与する資料として、**活動を通して得た地域の声をデータとして取りまとめ、行政及び市民へのフィードバック**を行う。事業は３ヶ年計画とし、最初の２年間で調査を行い最後の１年間で成果物としてまとめるという流れで行う。東京オリンピック・パラリンピックをきっかけに、松戸市にも多様な来訪者が増加することを見込んで公共サインを検討することで、**地域のホスピタリティを見直す**タイミングとなり、ひいては**地域の**

	コミュニティ醸成や、絆を深めることにもつなげることができる。
事業内容	1．事業内容 ① **【公共サイン定期便】** 公共サイン改善事業の活動について、市民に広く知ってもらい活動の裾野を広げることを目的に、2 か月に 1 回を目安に定期新聞として「公共サイン定期便（仮）」を発行する。 **公共サインを知り、松戸のまちを考える**ヒントとなるような内容を想定しており、活動の紹介だけでなく、公共サインに関する基礎的な情報（歴史、役割、種類など）や、松戸市における特徴的なサインに関するストーリー（設置されたサインの目的や担当者へのインタビュー等）、景観やバリアフリー等の公共サインに関連する様々な活動をしている市民へのインタビュー、サインデザインや施工に関わる業者へのインタビュー等を、毎回テーマを設定して掲載する。なお、公共サイン改善事業に関する**市民との意見交換の媒体としても活用**することとし、市民の声を受け付ける e-mail アドレスや団体の Facebook アカウント、電話番号を毎号記載し、そこに届いた市民の方々からの意見は、本人の承諾を頂いたうえで公開することも検討する。また、配布の方法については、紙媒体及び Web の両方を用意し、市内公共施設への配架、景観等に関連する（建築などの）協力団体への配布、Facebook への掲載等を行うことで、**多様な市民へ広く情報提供**できるよう配慮する。 ② **【ワークショップ（以下、WS と記載）】** **松戸市のアイデンティティ発掘**のために、団体メンバーと地域住民で班を組み、WS を重ねていく。内容については、松戸市が発行している「水とみどりと歴史の回廊マップ」にてルート設定されている市内 6 地域において、自然や歴史、地域のイメージ等から色や形でサインのモチーフやデザインツールになりそうなものをフィールドワークで探るとともにディスカッションを行い、**地域毎の特徴やサインに取り入れたい地域イメージ・目指したい地域イメージを共有**することとする。WS の企画から実施に関しては公共サインに関する専門家を外部アドバイザーとして招き、地域のアイデンティティ発掘と共有という目的を果たす WS となるようアドバイスを受けながら進めることとする。 対象地域は先述の「水とみどりと歴史の回廊マップ」に基づき、協働事業 1 年目に松戸地区、矢切地区、上本郷地区、2 年目に常盤平地区、小金北地区、小金南地区で行う。 WS の広報については、①の公共サイン定期便や市の広報への掲載、チラシを作成し市内公共施設への配架等の方法を想定している。 ③ **【公共サインガイドライン策定のための基礎資料】** 定期便の作成・発行を通して市民や民間事業者等から得たコメントや、WS の内容に基づき、松戸市における公共サインガイドラインの策定のための基礎資料の一部となる成果物を作成する。なお、資料作成にあたり公共サインの専門家に外部アドバイザーとして協力頂き、現実に即した実効性の高い資料作成に繋げる。

<table>
<tr><td></td><td>2．スケジュール
<table>
<tr><td>月</td><td>①公共サイン定期便</td><td>②ワークショップ（WS）</td><td>③ 基礎資料</td></tr>
<tr><td>4</td><td>テーマ設定、取材</td><td>企画開始</td><td>企画開始</td></tr>
<tr><td>5</td><td>執筆、編集、校正</td><td>担当課との内容協議</td><td>担当課との内容協議</td></tr>
<tr><td>6</td><td>第1号発行</td><td>第1回ＷＳ準備</td><td>データ収集</td></tr>
<tr><td>7</td><td>テーマ設定、取材</td><td>第1回ＷＳ実施</td><td>データ収集</td></tr>
<tr><td>8</td><td>執筆、編集、校正</td><td>実施内容・成果まとめ</td><td>データ収集</td></tr>
<tr><td>9</td><td>第2号発行</td><td>第2回ＷＳ準備</td><td>資料構成検討</td></tr>
<tr><td>10</td><td>テーマ設定、取材</td><td>第2回ＷＳ実施</td><td>専門家との打合せ</td></tr>
<tr><td>11</td><td>執筆、編集、校正</td><td>実施内容・成果まとめ</td><td>構成決定</td></tr>
<tr><td>12</td><td>第3号発行</td><td>第3回ＷＳ準備</td><td>データ作成</td></tr>
<tr><td>1</td><td>テーマ設定、取材</td><td>第3回ＷＳ実施</td><td>データ作成</td></tr>
<tr><td>2</td><td>執筆、編集、校正</td><td>実施内容・成果まとめ</td><td>編集</td></tr>
<tr><td>3</td><td>第4号発行</td><td></td><td>完成</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>協働の必要性</td><td>主にサインの設置者となる行政・施設管理者の視点、情報を受けとる住民・利用者の視点、そしてランドスケープを学ぶ学生ならではの視点という、行政・市民・学生が協働で行うことで、**多様な視点で公共サインを考え改善することができる。**さらに、協働で行うことによって**公共サインは行政のものというイメージから地域や利用者のものというイメージへ変える**ことができ、松戸市の地域への**愛着を高め**、来訪者に対する**松戸地域のホスピタリティを見直す**タイミングとなる。</td></tr>
<tr><td>事業実施の役割分担</td><td>■団体：①「公共サイン定期便」の企画・制作・発行・配布、②「ワークショップ（WS）」の企画・運営、③「基礎資料」のためのデータ作成・編集
■担当課：①「公共サイン定期便」への寄稿・情報提供・関連協力会社への配布・市民からの意見受付、②「ワークショップ（WS）」の事務局・市ＨＰの提供（団体リンク）・当日の参加、③「基礎資料」のための情報提供</td></tr>
<tr><td>既存の事業からステップアップした部分</td><td>「公共サイン定期便（仮）」や地域毎のWSを通して松戸市民に広く活動を知ってもらうとともに、行政や我々は地域のことをより深く知ることができるような事業内容とした。行政・市民・学生の三者の視点を合わせることにより協力しながら多様な視点から公共サインを捉えることができる。</td></tr>
<tr><td>事業の目標</td><td>・公共サイン定期便（仮）の発行を**年間4回以上**行う（3カ月に1回発行）
・WSは地域毎に行うが、**6地域共通の検討項目を3つ以上**設定し、公共サインガイドラインの基礎資料として有効なものを住民と共につくりあげることとする。項目の案としては、地域の特色を表す色・形のモチーフ・地域の将来像を表すキーワード等を想定している。
・住民と学生で共に行う各地域のWSを**計3回以上**（必要に応じて各地域2回）開催する。</td></tr>
<tr><td>今後の展望</td><td>・市民の公共サインに対する意識を、**「行政のもの」から「市民・地域のもの」**へ変化させる動機付けとなるような活動を継続していきたい。
・公共サインを通して市民が松戸のまちについて考え、**ボトムアップ**で公共サインに関する活動を**市内全域へ拡大**させていきたい。
・2020年東京オリンピック・パラリンピックを見据え、松戸を訪れる人々への**ホスピタリティを表す公共サインの検討**につなげていきたい。</td></tr>
</table>

（第6条関係）

事業の予算計画（収支予算書）

【労力換算（限度額算入）】　　（単位：円）

区分	科　目	金　額	積算内訳
団体	労力換算額　（A）	¥　284,596	※別紙　労力換算計算書　参照

【収　入】

区分	科　目	金　額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥　3,860	対象事業費の一部を団体の会計より拠出
	ワークショップ参加費	¥　12,000	100円×20名×6回
	自己資金の合計額（B）	¥　15,860	
市	協働事業負担金（C）	¥　140,000	
合計額(D)＝(B+C)		¥　155,860	

【支　出】

区分	科　目	予算額	積算内訳	
負担金の交付対象経費	報償費	¥　120,000	外部ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ謝礼	ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ：15,000円×6、打合せ10,000円×3回
	消耗品費	¥　1,500	事務用紙	A4 普通紙500枚入り＊5冊＊1箱
		¥　18,360	ﾌﾟﾘﾝﾀﾄﾅｰ	
		¥　6,000	ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ用（ﾍﾟﾝ、付箋紙、ﾈｰﾑﾌﾟﾚｰﾄ等）	
	食糧費	¥　6,000	ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ参加者用お茶・お菓子、ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ用水代	1,000円×6回
	使用料	¥　4,000	ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ会場使用料	210円×4時間×3回 210円×2時間×3回程度
	対象経費の合計(E)	¥　155,860		
その他経費（対象外）				
	その他経費の合計額(F)	¥　0		
合計額(G)＝(E＋F)		¥　155,860		

【チェック項目】

1 協働事業負担金（C）が、対象となる経費（E）欄の90％以内であること。

2 協働事業負担金（C）が、自己資金（B）欄に労力換算額（A）欄を加えた額を超えないこと。

3 協働事業負担金については、50万円を上限とする。

労力換算計算書

（単位：円）

項　目		換算額	積算内訳
労力換算額	活動計画		人数×時間回数×842円
	公共サイン定期便企画打合せ	13,472 円	4 人× 1 h× 4 回× 842 円
	公共サイン定期便取材	40,416 円	4 人× 3 h× 4 回× 842 円
	公共サイン定期便執筆・編集	40,416 円	4 人× 3 h× 4 回× 842 円
	ワークショップ企画打合せ	10,104 円	4 人× 1 h× 3 回× 842 円
	ワークショップ事前準備	30,312 円	4 人× 3 h× 3 回× 842 円
	ワークショップ実施	121,248 円	8 人× 3 h× 6 回× 842 円
	アドバイザーとの打合せ	3,368 円	2 人× 1 h× 2 回× 842 円
	公共サインガイドライン基礎資料作成	25,260 円	5 人× 2 h× 3 回× 842 円
			人× h× 回× 842 円
			人× h× 回× 842 円
			人× h× 回× 842 円
			人× h× 回× 842 円
			人× h× 回× 842 円
			人× h× 回× 842 円
			人× h× 回× 842 円
			人× h× 回× 842 円
			人× h× 回× 842 円
			人× h× 回× 842 円
			人× h× 回× 842 円
合 計（A）		284,596 円	